

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

グループホームくりの木

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	創設以来、地域の中で暮らし続けることを意識しながら、「一人では出来ない事も誰かの力を借りれば出来る。笑顔で敬う。」の理念を一貫している。	地域密着型サービスとしての、理念を検討したが、職員・地域に浸透しているため、現在に至る。手を出しすぎない。毎日、笑顔で接するを実践している。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の目の届くところに、理念を掲示している。毎月のミーティング等の際、職員で唱和し確認しながら実践に向けて取り組んでいる。	ミーティングの始まる前に職員で唱和している。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	月一回の通信に、理念をのせ、家族に理解してもらおうようにしている。	地域にはくりの木通信を年3回程度配布。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の子供たちが遊びに来て、一緒に遊んだり、散歩に出かけた折おしゃべりをしたりと、日常的に地域の人との交流をしている。また近所の方が野菜など届けてくださる。	休みには手作りの遊びのものを持参。数人で来所し2ユニットの利用者の相手を代わる代わるしてくれ、職員とも仲良しになり、自然に訪問してくれている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事があるごとに、手紙を送り、気軽に立ち寄ってもらおうようにしている。ボランティアの訪問、中学生の体験学習など交流を持っている。又職員が地元の信者の清掃に参加し、地域の人との交流を深めている。	○ グループホームをもっと知って頂けるよう、広報活動に力をいれたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設周辺は高齢者が多く、わき道は生活道路になっている。道幅も狭く坂道なので、落ち葉清掃・除雪作業を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員のミーティングで、改善するように話し合っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果を議題にし、委員さんの意見を職員に伝え、実践に努めている。		ホームの昼食を実際に食べて頂くことにより、和やかな雰囲気感想や意見を聞くことが出来る。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター・町ケアネットを通じ情報の共有、伝達を行い、地域の研修にも参加している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	意思決定に支障があり、正しい判断ができない利用者に対しては、後見人から回答を得ている。制度活用の際は、必要書類を提供している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体の異常を観察し、異常時は複数での確認をしている。言葉の暴力にも注意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には契約書を十分に説明し、退所・入院時においても本人・家族の希望のもとに対処している。</p>	<p>本人・家族、担当職員も交え話し合いを重ね、十分な説明を行い対処している。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>些細な訴えにも時間をかけ、傾聴に心がけている。事実を検証、情報を開示し、運営に反映させている。</p>	<p>利用者の日常のなげない会話のなかから、望んでいること、不満等を察し日頃の介護に役立てている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には、普段の健康状態・生活の様子をお話している。毎月「くりの木通信」を発行し、個人別に生活の様子を書き添えている。来訪時に金銭出納状況を開示し、確認後サインしていただいている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来所時には話しやすい雰囲気づくりに留意し、家族の会話の中から家族の意見や不満を汲み取り、反映させるように努めている。苦情相談窓口を設置し、担当職員を中心に家族からの声を聞き、運営に反映するよう努めている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員ミーティングにおいて、職員の意見を聞き、反映している。</p>	<p>介護における設備等、介護者のより良い意見を積極的に取り入れている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>全職員の希望を考慮し、管理者がバランスよく勤務表を作成している。</p>	<p>職員同士の話し合いにより勤務の調整をしている。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニットごと業務を行っているが、時折他ユニットとも交流を持ち、利用者と同様になるように心がけている。職員の離職は最小限に抑えるように対応しているが、職員が替わる時は利用者家族に説明し、前任者と二週間ほどの引継ぎ期間をとっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会にはなるべく多くの職員が受講できるように配慮している。職員はヘルパー研修、基礎研修、実践者研修等を受講しており、研修内容はミーティング時に報告して全職員が共有するようにしている。	○ より多くの職員に研修を受講するよう勧めている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、積極的に研修会や交流研修に参加し、得た情報はミーティング時に職員に報告、質の向上に取り組んでいる。	地域の情報交換会等に参加している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員相互が気兼ねなく話しあったり、親睦の場を設けている。	職員の要望にのっとり現場環境を整え、また時々、懇親会をしている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ヘルパー取得、介護福祉士・ケアマネ受験希望者を奨励し、向上心を持てるようバックアップしている。	出来る限りの資格取得を勧めている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者・家族で見学・体験していただき、不安の解消・理解に努めている。利用者の情報を把握し、安心できる環境づくりをしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の方にも来所していただき、現状の訴え・要望を十分に聞き、安心して入所していただけるよう、納得いくまで話をさせていただく。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報把握に努め、利用者・家族からの要望を聞き、支援に反映している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できるだけ多くの情報を得た上で、利用を開始している。入居後しばらくの間は利用者の様子を見ながらの対応をしており、帰宅願望のある場合は家に連れて行くなど、少しずつホームに慣れるような支援をしている。		本人が慣れるまで見守り、職員間で対応について常に話し合っている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側という関係でなく、利用者は人生の先輩という意識を持ち、ともに学び、支えあう関係を念頭において利用者と職員は生活している。お年寄りの知恵を借り、学ばせていただく事もある。		利用者から癒されることが多々あるので、
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来訪していただける雰囲気を作り、家族の方も一緒に楽しい時間を過せるようにしている。その中で、利用者がより良い生活が送れるよう、話が出来よう心がけている。		家族の方が遠慮なく過ごせるような場作りを心がけ、配慮している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間を設定せず、自由に来所していただいている。利用者の体調に応じて、外泊・外出を承諾している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来客者訪問ノートを用意し、記名していただいている。時には一緒に写真をとり、お渡ししたり、利用者のお部屋にも飾らせていただいている。年賀状を送ったりもしている。		外出や電話等、本人の希望に添い対応している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レク.作業の中で、コミュニケーションを図り、時には職員が仲立ち支援することで交流を持ち、お互い気持ちよく生活できるように努めている。		職員1人1人が目を配り、常に注意している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族の了解を得れば、情報提供をし、支援にかかわっている。		退所された家族とも交流をもっている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の言葉や表情から利用者の希望・意向の把握に努めると共に、意思疎通の困難な方には家族や関係者から情報を得るようにしている。会話や表情・行動を観察し、気持ちを汲み取るよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴に関する情報を、本人・家族・その人を良く知る人から教えていただいている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	残存能力、体調に応じて役割を持ち、無理強いすることなく生活していただき、その様子を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の個別ノートを参考にしながら、本人や家族の思い・意向を踏まえた上で、定期的開催するカンファレンスにおいて職員間の意見交換を行い、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月に1回の見直しを行っている。又、入居者の状態が変わっていれば、その都度職員とミーティングをしながら計画を作成している。		ミーティングの話し合いの中で見直され、その時その人にあった内容になるように適宜付け加えたり、修正している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ノートを作り、一日の様子・ケアの実践・結果・気づきなどを記入し、情報の共有、問題点の改善など、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合により通院支援・買物同行・書類の手続き等を行っている。利用者の要望に応じて、催し物へも積極的に参加したり、利用者の家に連れて行くなど柔軟な支援をしている。		利用者が意志を伝えやすいような環境作りにつとめている。
まさお				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	社会との関わりを持つため、地域のボランティアの方々に協力して頂いている。		施設長が地域の民生委員を務めている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	包括支援センター・役場等が開催する会議に出席し、情報交換・共有している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	情報交換会・研修会に積極的に参加している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医師の往診が月に1回定期的であり、内容については家族に報告している。。家族の要望があれば、希望の病院に同行する場合もある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>認知症の専門医と事業所との関係を築き、診断や治療を受けられるようにしている。分からない事は職員が相談し、対応方法について指示助言してもらえるようにしている。</p> <p>利用者の変化に伴い専門医に相談し、対応している。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>利用者の異変に対して、すぐに相談できるようにしている。</p> <p>看護師2名が常に利用者の状態を把握している。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>家族の希望を聞きながら、病院との連携を図り、早期退院に向けた働きかけを行っている。</p> <p>入院時には本人が安心出来るよう病院に行き、病状を把握している。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>看取りに関する指針を作成し、提携医師の助言をふまえ、家族の意向を尊重している。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>利用者の状況に合わせ、食事・排泄・入浴等の介護を行っているが職員全体の課題として、医師看護師を中心に支援できるよう検討している。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>速やかに介護サマリーを作成し、情報提供を行っている。</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや、対応に十分注意し、誇りやプライバシーを損なわないように気をつけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	本人の意向を最優先し、分からないことは丁寧に説明死、自分の意志があらわせられるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を第1に考え、過ごせるよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の好みの理美容室に行っている。利用が困難な方や望まない方は、月一回美容師さんに訪問していただき、好みのカットをしていただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物・調理を入居者と一緒に行っており、献立作りについても入居者の希望を取り入れている。野外でお弁当を食べたり、外食も取り入れ、いつもと違った雰囲気での食事を楽しむよう工夫している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ドライブがてら、本人の好きなおやつや好みのもを買いに行ったり、お茶の時間もそれぞれ飲みたいものを提供したりもしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄パターンを把握し、さりげなく声掛け、トイレ誘導をしている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日10時から15時まで入浴が可能である。基本的にはユニットごとに曜日を決定しているが、利用者の体調・希望により、柔軟に対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの体調に合わせて、自室で休息を取ってもらったり、一休み出来る様リビングにソファを置いてある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や能力に合わせて、家事をしてもらっている。外回りの草むしり、花の水くれ・野菜作りも楽しみながら行っている。室内では歌、塗り絵、カルタなどしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段お金をお預かりしている方も、買い物際にはお金を渡し、自分で支払う機会を作っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞き、買い物、散歩など、中に閉じこもらないよう外出する機会を増やしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節感を味わえるよう、お花見や紅葉狩りに出掛けたりしている。又外食する機会も設けている。		文化会館で開催される歌謡ショー・旅回り一座などを観に行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人とのつながりを保つため、電話、手紙等、本人の希望にまかせ、一人では困難な人には、職員が支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	行事毎に参加して頂けるよう、ご招待している。時間に関係なく、いつでも立ち寄ってもらえるようにしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急かつやむを得ない事情で、何らか拘束が行われる場合、その理由・方法・期間等を明記した記録、家族等への説明、同意書を交わしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出来るだけ鍵をかけず、入居者が自由に出入り出来るように、利用者の様子をよく観察し、さりげなく声をかけたり、一緒について行くよう安全面には気をつけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーに配慮しながら、安全に生活できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の認知度に合わせて、注意の必要な物品は預かるようにしている。薬剤は厳重に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	専門の方による事故防止に対する講習会などを受けている。事故が発生した場合は、事故報告書を作成し、職員全員で検討し、対策を立て、事故再発防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署員の協力ご指導を得て、すべての職員がAED使用方法・心肺蘇生法の訓練などを定期的に行っている。		応急手当の訓練はさらに増やしていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画を作成し、計画に基づき、年二回避難訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒の危険、危惧が見られたとき、家族に相談し、防止対策を考慮、必要に応じて補助器具を使用している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の体調に変化が見られたときには、バイタルチェックを行い、看護師・かかりつけ医に連絡・相談をしている。職員間の申し送り時には、その状況を正確に引き継ぎ、経過を観察している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護に関わる職員は、個々の薬剤情報を常に把握し、正確に服薬できるよう支援している。薬の服用によって、入居者に変化が見られた場合は看護師・医師に連絡している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	普段から繊維質の多い物や乳製品等の食材を取り入れている。身体を動かす機会を設けている。排便チェック表を記録し、排便パターンを把握し、便秘が見られたときは、看護師に相談、下剤などを使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立の方は本人に任せることが多いが、困難な方は、職員が毎食後支援している。」		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の一人一人の残食量・水分摂取量をチェック表に記入し、おおまかな摂取量を把握している。水分不足にならないよう気をつけている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種をしている。外出後は必ず、うがい手洗いをやっている。感染症対策マニュアルや感染症に関する情報を集めたファイルを作り、勉強会を開いている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生鮮食品は地元業者から新鮮な物を宅配してもらっている。まな板・台ふきなど調理器具は毎日消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るく広いスペースを設け、中には利用者の日常生活の写真が飾られ、見て楽しめる様にしている。玄関先には植木や花などを植えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は、明るくゆったりしたスペースに利用者同士がおしゃべりしたり、テレビを観たり、ゲームをしたり出来るような場所にしてある。季節の花や利用者の写真、作品が飾ってあり、くつろげる雰囲気にしてある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやテーブルと椅子等を於き、各々気のあった者同士で自由に過ごして頂くよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や馴染みの整理ダンス・ぬいぐるみなどが持ち込まれて、利用者が落ち着いて過ごせるようになっている。利用者の身体の状態に合わせ、床に布団を敷き、安全に気をつけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室共用スペースとも冷暖房、換気扇が完備されている。窓を開け、風を通すことも忘れずに行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーに設計されており、利用者が自立生活できるよう配慮されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱失敗しないように、普段使う物は場所を決めて動かさないようにしている。居室・トイレなど場所が分かるように表札をつけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベンチなどを置き、日光浴を出来るようにしている。また、四季折々の花を植え、水やり、草むしりなど世話をし、利用者の楽しみの1つにしている。		さつまいも・トマト等、毎年収穫している。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

栄養バランスを考慮した手作りの食事。居心地よい空間づくり。